# 房総発掘ものがたり

平成21年度出土遺物巡回展◎**房総発掘ものがたり**

## 地下50cm　文字の世界

財団法人　千葉県教育振興財団

千葉県立房総のむら・八千代市立郷土博物館・市川市立市川考古博物館
袖ケ浦市郷土博物館・千葉県立関宿城博物館・千葉県立中央博物館

# 開催にあたって

平成 21 年度の出土遺物巡回展「房総発掘ものがたり」は、古代の文字を取り上げました。奈良時代や平安時代の土器には、地名や人名などが墨で書かれていることがあり、これらは当時の社会を探る上で貴重な考古資料となっています。

当財団では、平成 11 年にも同様な巡回展を実施しましたが、その後 10 年の間に新たな資料の追加もありました。特に平成 12 年、流山市市野谷宮尻遺跡から出土した「久」の墨書土器が、東日本最古の西暦 3 世紀後半のものと判明し、大きな話題となりました。

今回は、房総各地から出土した墨書土器を中心に、時代ごとに展示し、文字の伝来とひろがり、定着までを紹介しました。古代の人びとの文字に対する想いを感じとっていただければ幸いです。

なお、本巡回展の開催にあたりまして御協力をいただいた関係の皆様や関係機関に対しまして厚く御礼申し上げます。

平成 21 年 7 月 4 日

財団法人　千葉県教育振興財団
文化財センター長　藤﨑 芳樹

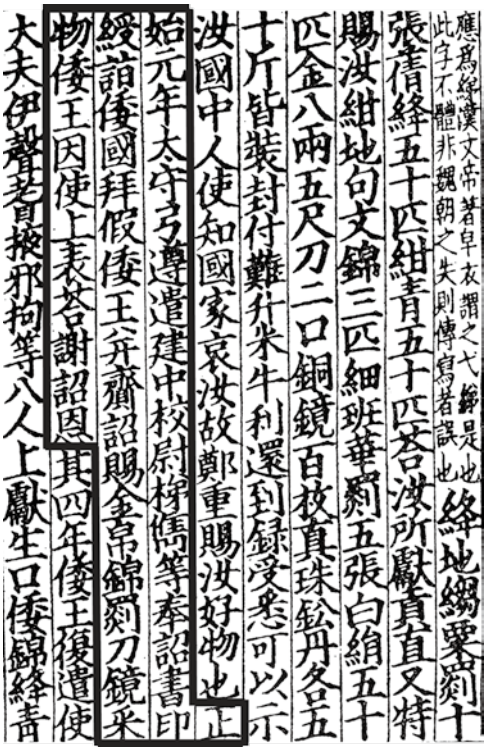
# Ⅰ 文字の伝来とひろがり

（１世紀～４世紀）

西暦57年、日本（倭）の九州にあった奴国の国王は中国・後漢の光武帝から「漢委奴国王」と記された「金印」を授かりました。

この頃、日本にはじめて文字（漢字）が伝わったと考えられています。しかし、当時の人々がすぐに文字を使い、情報伝達や日常生活の中に取り入れたわけではありません。

## 魏志倭人伝から見た文字とのかかわり



「新訂　魏志倭人伝他三篇　中国正史日本伝」
石原道博編訳　岩波書店　二〇〇七年より引用

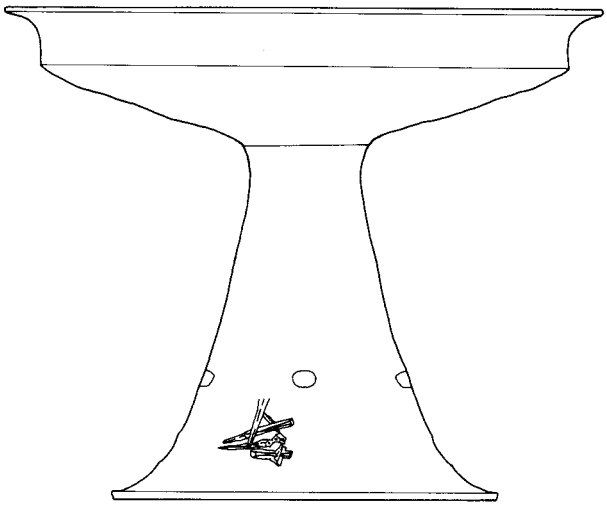
正始元年（二四〇年）帯方郡太守の弓遵は、建中校尉梯らに命じて、前々年預かった詔書と印綬とをもって倭国に行かせた。そのときの使者は、倭にいたり、倭王に謁して金帛と、錦・毛織物・刀・鏡や美しい品物を贈った。そこで倭王は、使者に託して上表文を奉り、詔と恩賜の物の答礼をのべた。・・・・・・・

「改訂版・邪馬台国辞典」武光誠　山岸良二編集
同成社　一九九八年より引用

魏志倭人伝には当時の日本のことが書かれています。正始元年（240年）に日本の王（倭王）は「中国の魏王朝に何回も使者を派遣し、また魏王朝からも使者が来て、魏の皇帝の詔書をもたらしているので、このときすでに文書外交が成立していた」（西島定生「邪馬台国と倭国」吉川弘文館　平成６年）と考えられています。３世紀中頃には「上表文」作成のために一部の関係者は漢字や漢文を習得しなければならなかったのです。

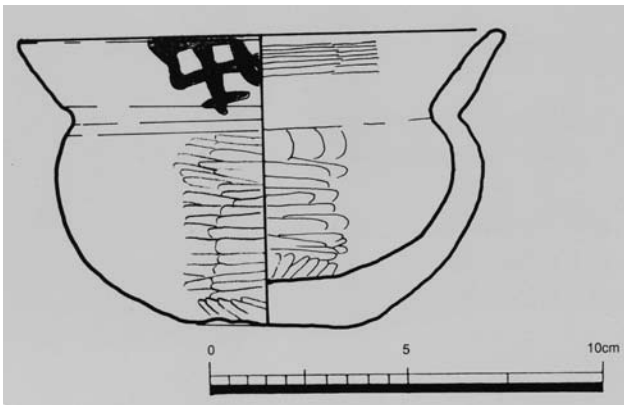
# 日本最古の刻書、墨書土器

発掘調査ではどのような文字資料が発見されているのでしょうか。平成９年に発見された日本最古の「刻書」土器が、三重県津市の大城遺跡出土の弥生時代後期（２世紀中頃）の土器です。高杯形土器の脚部に「奉」の字が刻まれていました（１，２）。この頃三重県では古い文字が記された土器が相次いで発見されました。平成７年には三重県嬉野町（現松阪市）の片部遺跡から「田」と書かれた古墳時代前期の土器（４世紀初頭）（３，４）が出土し、墨書土器としては日本最古と話題となりました。また、同じ町内の貝蔵遺跡からは、さらに古い弥生土器（３世紀前半）に人面と思われる墨書が見つかり（５）、そして平成 11 年には同じ貝蔵遺跡から２世紀末頃とされる「田」の墨書土器（６）が出土しました。



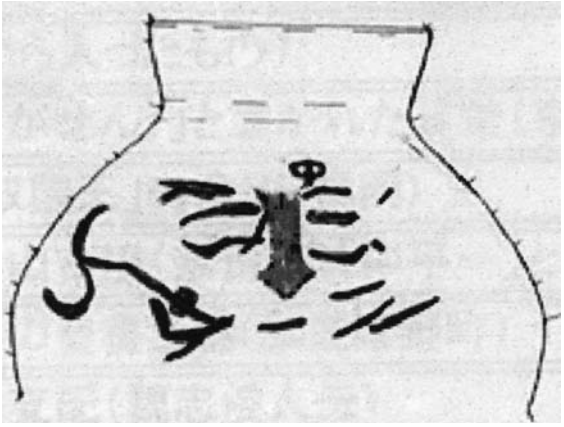
１．大城遺跡「奉」実測図

２．大城遺跡「奉」写真




３．片部遺跡「田」実測図

４．片部遺跡「田」写真



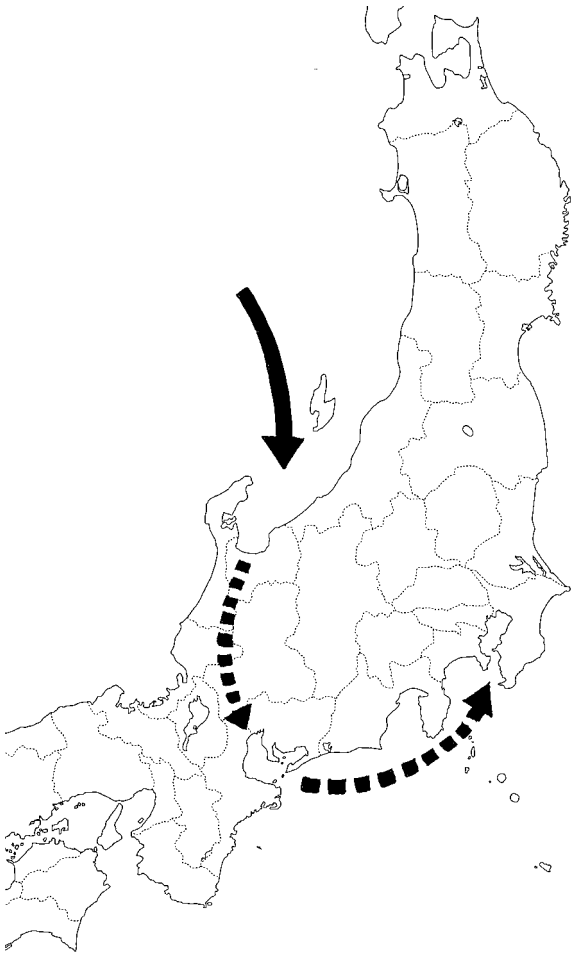
5．貝蔵遺跡「人面土器」実測図

6．貝蔵遺跡「田」写真

1．2．「大城遺跡発掘調査報告書」1998 年安濃町教育委員会より転写（津市教育委員会掲載許可）
3．「片部遺跡への招待」1996 年嬉野町教育委員会より転写
4．松坂市教育委員会提供
5．6．松阪市ホームページより転写（松阪市教育委員会掲載許可）

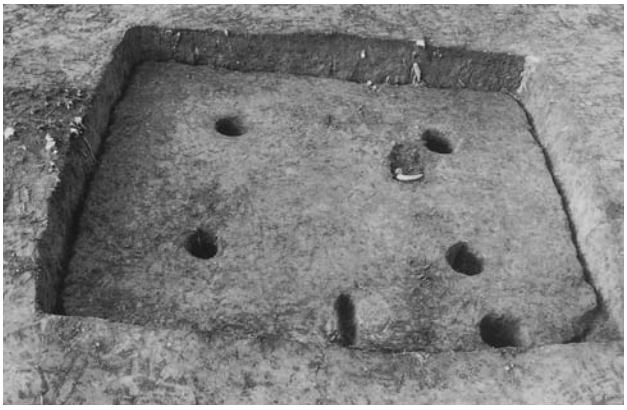
三重県で古い文字の発見が相次ぐのはなぜでしょうか。いくつもの説がありますが、石川県金沢市でも２世紀代までさかのぼる墨書土器が発見された（千田遺跡）ことから「北陸地方」を重要な起点とすべきでしょう。大陸文化が朝鮮半島を経由し、渡来人（とらいじん）によって北陸地方にいち早く伝わり、琵琶湖の東側を通り今の三重県伊勢湾沿岸（えんがん）にたどり着いたと考えられます（右図）。なお、伊勢湾周辺地域は、その後３世紀に入ると「北陸系」の土器がたくさん持ち込まれています。

「文字」を知る人たちが、２世紀当時の一大勢力であった畿内地方になぜ向かわなかったのか、よくわかっていません。たまたま発掘調査で発見されないだけなのかも知れませんが、伊勢湾周辺地域はその後（３世紀以降）、東西の中継（ちゅうけい）拠点として発展し、房総半島にまで「文字」を伴う新しい文化や技術をもたらせました。その証拠に、千葉県の発掘調査でも３世紀後半の古い墨書土器の発見があったのです。



## 東日本最古の墨書土器　－千葉県流山市から発見－

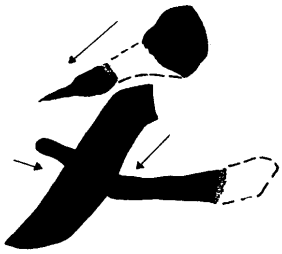
都市再生機構の流山市の区画整理事業に先立ち、平成12年から当財団が発掘調査を実施しましたが、その中の「市野谷宮尻遺跡」から「久」という字が書かれた3世紀後半（古墳時代前期）の土器が発見されました。この遺跡からは北陸系土器を伴う伊勢湾周辺地域の土器が出土しており、当地域との関わりが明らかとなったのです。



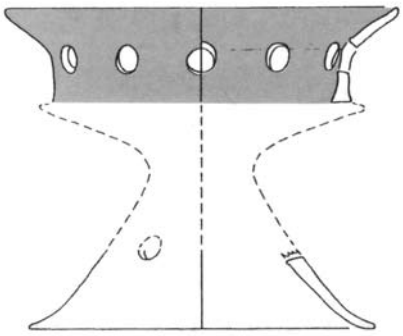
墨書土器が出土した住居跡

墨書土器

墨書が書かれた場所



「久」



北陸系土器

「流山新市街地地区埋蔵文化財調査報告書１」2006年３月
財団法人千葉県教育振興財団より引用

## 鏡に記された文字

小見川町にある城山第１号墳は６世紀後半の前方後円墳ですが、４世紀初め頃の「三角縁神 獣 鏡」（中国製とされる）が発見されました。そこには42文字もの銘文が書かれていました。

「吾作明竟甚大好　上有神守及竜虎　身有文章　銜巨古有聖人東王父西王母　渇飲王　淫飢食棗　寿如金石」

この文章は中国で記されたもので、当時の日本の人々がどこまで解読できたのかわかりません。しかし、この鏡はその後300年もの間受け継がれていったほど大切なものだったのです。

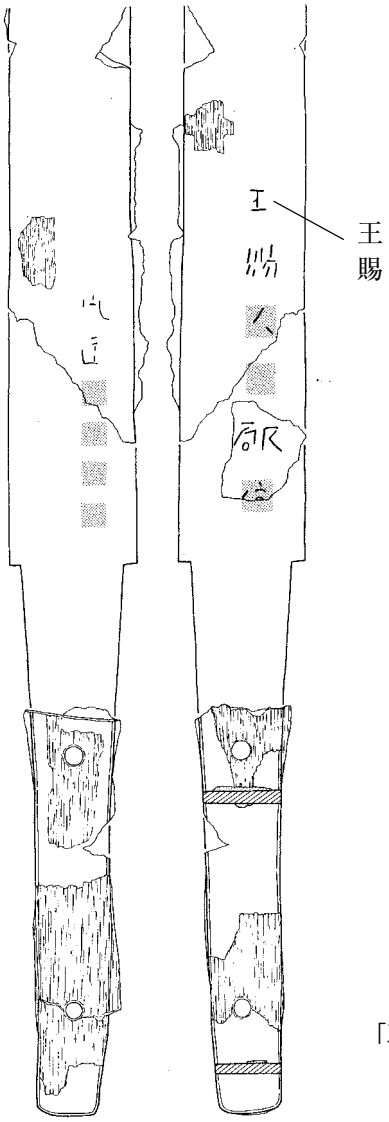
「城山第１号前方後円墳」1978年　小見川町教育委員会より引用

# Ⅱ 文字のひろがりと定着

（５世紀～７世紀）

## 鉄剣に記された文字

４世紀までは「田」「久」など「単語」は存在していたものの、日本人が本格的な漢字の「文章」を使用しはじめたのはおそらく５世紀以降のことでしょう。朝鮮半島で勢力を強めた百済との文化交流が深まったことも要因です。埼玉県の稲荷山古墳（５世紀後半）からは115文字に及ぶ金象嵌の銘文が刻まれた鉄剣が、千葉県でも、市原市稲荷台１号墳（５世紀中頃）から「王賜」の銘文が記された鉄剣が発見されました。「王」が具体的にだれなのか明らかではありませんが、国立歴史民俗博物館の平川南館長によれば「畿内王権と（地方の）中小首長層とが直接結びつく可能性は十分ありうる」とされ、武器、武具が伴うことから「被葬者は武人として畿内王権に奉仕し、その証として鉄剣を下賜された」と指摘されました。５世紀代の政治的な支配関係等においては「文章」が情報伝達として介在していたことになり、こうした階層では文字の全国的なひろがりと発展があったと思われます。



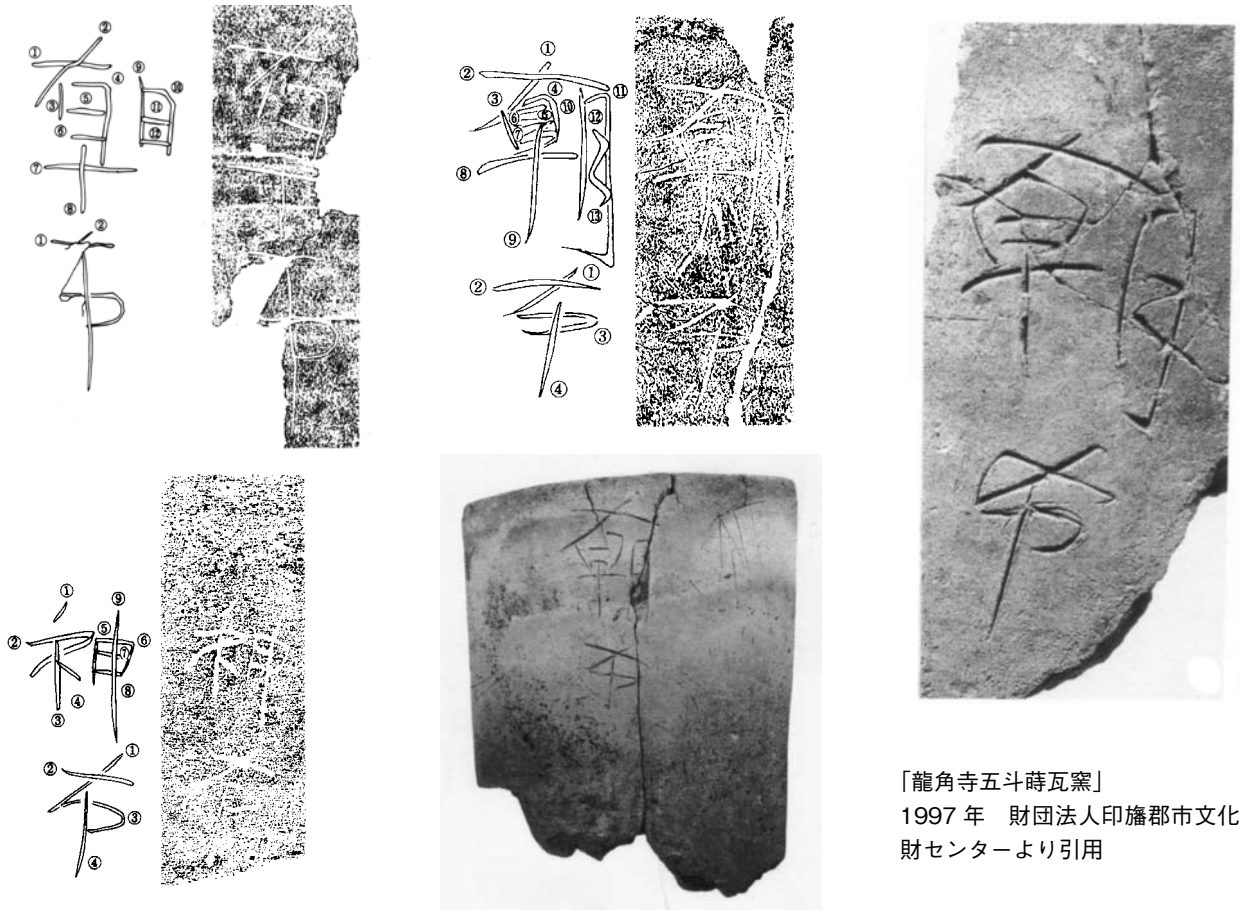
「王賜」銘鉄剣概報　1988年市原市教育委員会　市原市文化財センターより引用

## 瓦に記された文字

印旛郡栄町の五斗蒔瓦窯跡（７世紀中頃）からは、当地域最古の寺院である「龍角寺」に供給していた瓦が大量に発見されました。そこには「朝布（あそう）」「服止（はとり）」「神布」といった周辺の地名や造瓦にかかわった集団」（千葉県史より）の名前がたくさん書かれていました。

この理由について発掘調査報告書によれば、龍角寺に瓦を納めることは「（工人）集団あるいは地域ごとに強要された負担であった」ためその証拠として文字を記載したようです。

７世紀代には工人たちにも「文字」が情報伝達の手段としてひろまっていたのです。

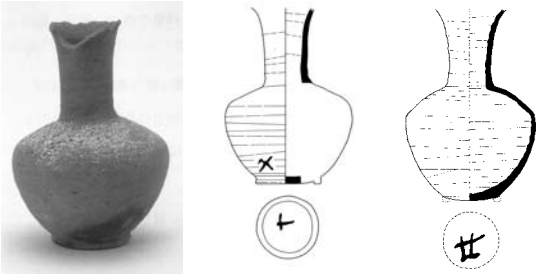


「龍角寺五斗蒔瓦窯」
1997 年　財団法人印旛郡市文化財センターより引用

## 須恵器に記された文字

７世紀後半から８世紀前半は日本の律令体制が整えられた時期です。戸籍や計帳などが作られ、役所の中に公文書が定着しました。また万葉集や日本書紀などが編纂され、万葉仮名も使われはじめました。

文字は役所を中心に人々の生活の場までひろまっていき、日常の什器である土器に文字が書かれるようになりました。大網白里町の餅木横穴群の調査で出土した７世紀後半の須恵器には、ベンガラで「千」「十」「甘」と朱書がされていました。



「大網白里町餅木横穴群」　1999 年　財団法人千葉県文化財センターより引用

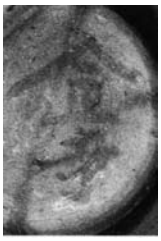
# Ⅲ 文字の定着と多様化
（８世紀以降）

奈良時代以降、律令体制が定着するようになると、文字が役所のみならず一般集落まで普及するようになります。土器などに書かれた文字内容から、人々の信仰や当時の地名や人名、施設の名称などがわかるようになりました。

## 仏を書く

この時代、仏への信仰を表す文字資料が多くみられます。奈良時代以降、古代仏教の拠点となる初期寺院や国分寺以外にも、一般集落のなかに仏教的建物や「寺」や「仏」などの仏教関連の墨書土器が認められるようになります。

### 上総国分寺の墨書

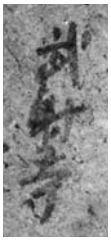

「金寺」

「法花寺」

「講院」

「金寺」は「金光明四天王護国之寺」＝僧寺、「法花寺」は「法華滅罪之寺＝尼寺を示しています。また、「講院」は国分寺の法会を行う講師が住んでいた場所を指しています。

### 郡の寺と郷の寺


「武射寺」

この遺跡は、古代の役所である武射郡衙（嶋戸東遺跡）に近接して位置しており、「武射寺」の墨書土器から、武射郡の拠点となる寺院であることが明らかとなりました。

山武市真行寺廃寺

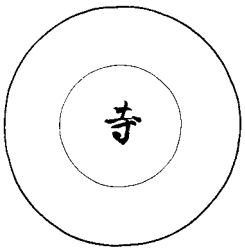
「高罡寺」＝岡

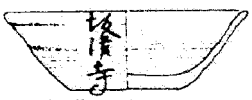
佐倉市長熊廃寺

古代印旛郡長隈郷に所属する寺院と思われ、土器の年代から、国分寺以前の初期寺院とされます。

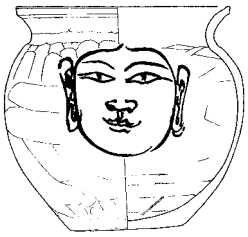
### 一般集落の寺

国分寺や郡寺以外に、現在の地名を付けた寺や、新しい寺で「新寺」、大きい寺で「大寺」など別称と思われるものがいくつかみられます。ただ、仏教関係の墨書土器では、単に「寺」や「仏」と書かれたものが圧倒的に多く見つかっています。

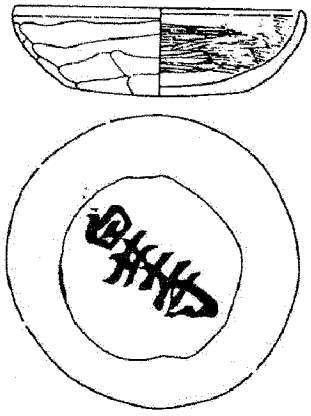

「寺」


「坂津寺」

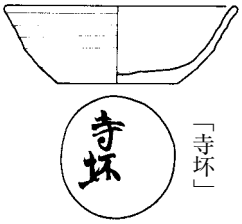
佐倉市坂戸・広遺跡
現佐倉市坂戸は、古代「坂津」と表記されていたのでしょう

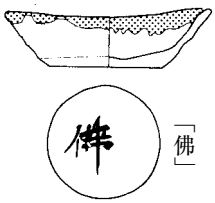

仏面

佐倉市八木山ノ田遺跡


「白井寺」

佐倉市六拾部遺跡
現佐倉市大作にありますが、古代に「白井」という地名があったのかもしれません。


「寺坏」


「佛」

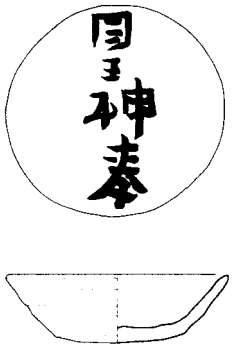
八千代市井戸向遺跡

## 神を書く

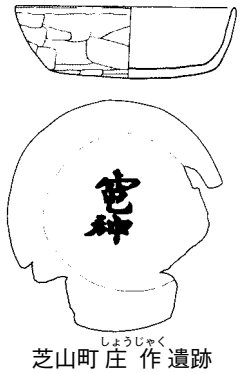
仏関連以外に、神への信仰を表現した墨書土器が特に下総国を中心に認められます。「神へのささげ」を表したり、文字とともに人面を描いて個人の延命や祓(はら)いを意味するものなど多くの内容を伺うことができます。

### さまざまな神

ムラの人々は、生活のなかで、さまざまな神を信仰の対象としていたことが書かれた文字から知ることができます。

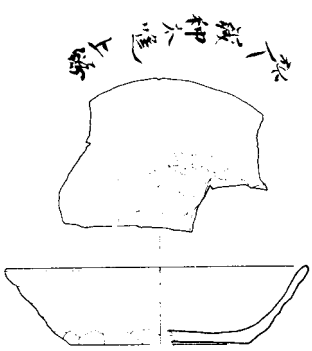


「国玉神奉」



「竈神」

芝山町庄作(しょうじゃく)遺跡



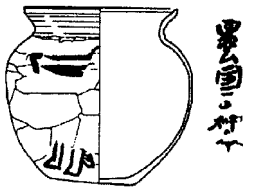
「上総□……□秋人歳神奉進」

芝山町庄作遺跡

異様な顔

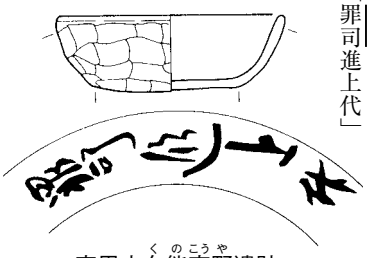
「手」

芝山町庄作遺跡



「罪部国玉神奉」

芝山町庄作遺跡

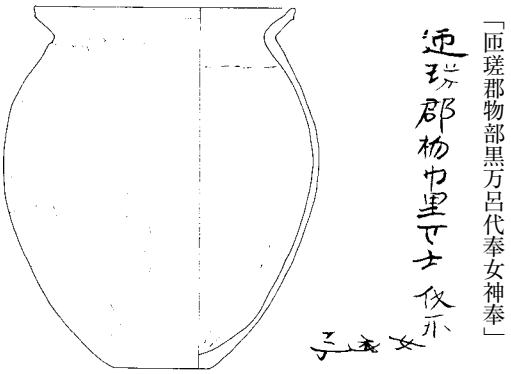


「罪司進上代」

富里市久能高野(くのこうや)遺跡

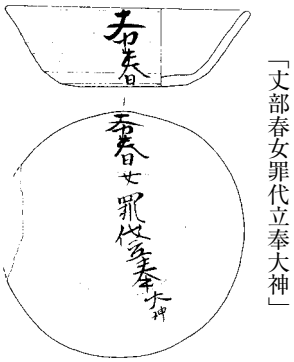
### 神への祈り

文章のような多くの文字が書かれている墨書土器が下総国、特に印旛沼周辺に多く発見されています。その書式は基本的に「地名＋人名＋召（形・方）代（替）進奉（上）」という書き方です。意味するものは、自分の代わりに何かを神に奉ることにより、神の守護や御利益あるいは自分の延命などを祈ったのでしょう。この長文の墨書土器には、人面が描かれているものもあります。



「匝瑳郡物部黒万呂代奉女神奉」

本埜村角田台(つのだだい)遺跡



「丈部春女罪代立奉大神」

印西市西根遺跡

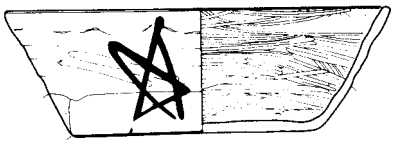
## その他の信仰

遺跡から出土する墨書土器には、ほかにもいろいろな内容を示すものがみられます。意味不明なものが多くありますが、なかには、まじないの記号や権威を示す特殊な文字など興味深いものがあります。

### まじないの記号

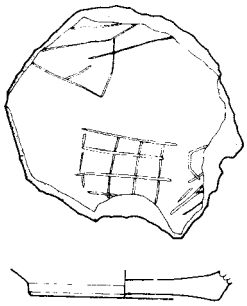
中国在来の信仰である道教やそれが日本化した陰陽道に関連すると思われる記号がいくつかの遺跡で見つかっています。

五芒星



柏市花前Ⅰ遺跡

九字切り

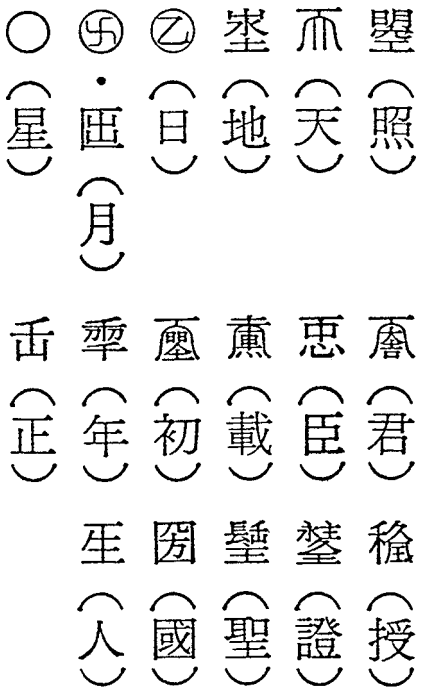


八千代市白幡前遺跡

星印のような五芒星は、陰陽道のまじないのしるしで、「木火土金水」の五行を表すと言われ、本来は道教の北極星信仰を表現したものです。また、九字切りの起源は、４世紀初頭の道教書に、入山の呪文として「臨兵闘者皆陣列在前」の９文字があり、魔よけの呪文として使用されています。

### 則天文字

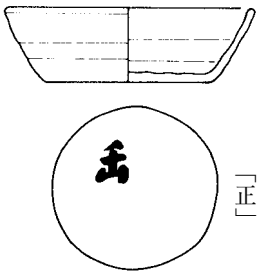
この文字は、中国唐代の女帝、則天武后が在位した690年から705年の間だけ制定し、使われた特異な文字群です。現在確認されている文字数は17文字ですが、県内では、その内の数文字が遺跡から見つかっています。




（　）内は則天文字の元の漢字

「天」

柏市花前Ⅰ遺跡



「正」

東金市作畑遺跡

「國」

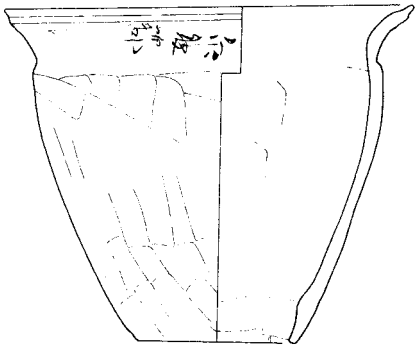
東金市滝東台遺跡

「人」

八千代市白幡前遺跡

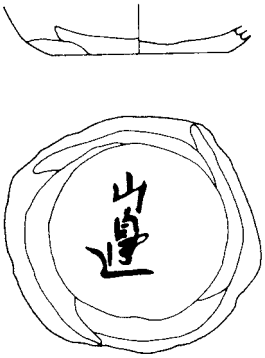
## 地名を書く

文字資料のなかには、10世紀代に編纂（へんさん）された『和名類聚抄（わみょうるいじゅうしょう）』にみられる国や郡・郷名（ごうめい）を記載している例が多く見つかっています。また、郷よりも狭い範囲を指していると思われる地名で、現在でも字名などとして残っているものもあります。



「印波郡」

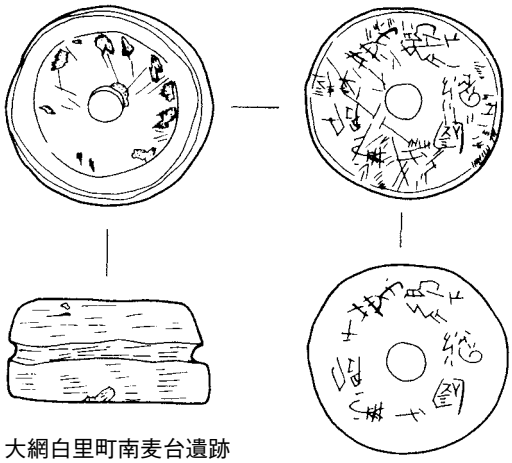
成田市大袋腰巻（おおぶくろこしまき）遺跡



「山邊」

大網白里町砂田中台（いさごだなかだい）遺跡

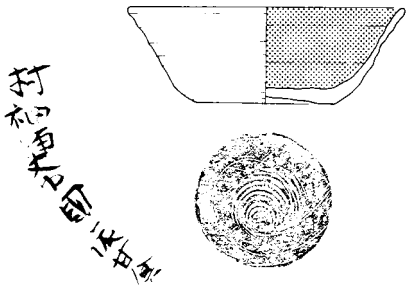
「和名類聚抄」下総国部分



「下総國千葉郡千葉郷」

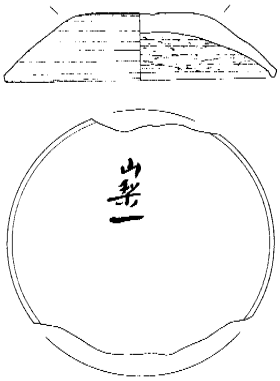
大網白里町南麦台遺跡

大網白里町南麦台（みなみむぎだい）遺跡から「下総国千葉郡千葉郷」と刻（きざ）まれた紡錘車（ぼうすいしゃ）（糸をつむぐ道具）が発見されました。この遺跡では、「草野」と書かれた墨書土器も見つかっており、遺跡の所在地は古代上総国山辺郡萱野郷（かずさこくやまのべぐんかやのごう）に含まれると思われます。すなわち、下総国千葉郡千葉郷から国を越えて上総国山辺郡萱野郷に紡錘車を携（たずさ）えて人が移動してきたことを伺わせる資料です。



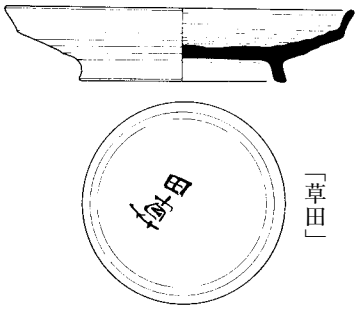
「村神郷丈部国依甘魚」

八千代市権現後（ごんげんうしろ）遺跡
（現八千代市村上）



「山梨一」

四街道市馬込（まごめ）No.1遺跡
（現四街道市山梨）



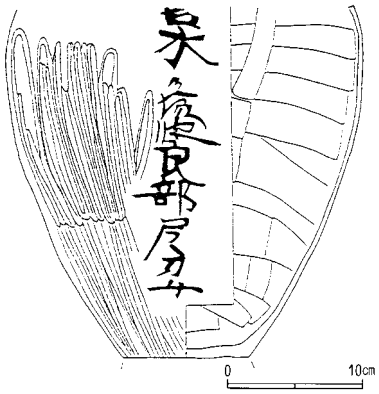
「草田」

八千代市白幡前（しらはたまえ）遺跡
（現八千代市萱田）

## 人名を書く

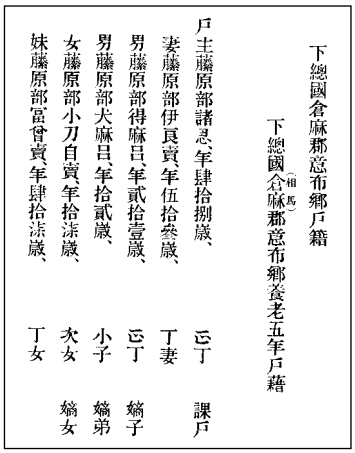
古代房総では、文献史料から丈部・大伴部・占部・刑部などの氏が広範囲に分布していたことが知られていますが、遺跡から出土する文字資料のなかには、これらの氏族名や名前が書かれているものがいくつか見つかっています。特に、下総地域に集中する傾向が強くみられます。

**氏族名＋人名**




「泉久須波良部尼刀女」

我孫子市新木東台遺跡



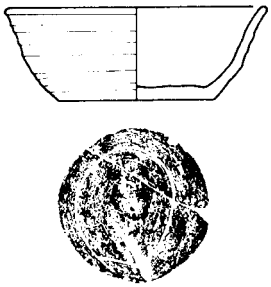
下總國倉麻郡意布郷戸籍

下總國倉麻郡意布郷養老五年戸籍

戸主藤原部諸忌、年肆拾捌歳、　巳丁　課戸
妻藤原部伊良賣、年伍拾叁歳、　丁妻
男藤原部得麻呂、年貳拾壹歳、　巳丁　嫡子
男藤原部犬麻呂、年拾貳歳、　小子　嫡弟
女藤原部小刀自賣、年拾漆歳、　次女　嫡女
妹藤原部冨曾賣、年肆拾漆歳、　丁女

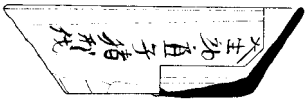
「大日本古文書　編年之一」
昭和六十二年　（財）東京大学出版社より引用

『続日本紀』757（天平宝字元）年三月二十七日条に、「藤原部」の表記をこの年以降「久須波良部」に改めるという記載があります。757年以降の表記は「久須波良部」であり、この墨書土器は、757年以降に書かれたものと判断することができます。



「丈部乙刀自女形代」

八千代市北海道遺跡



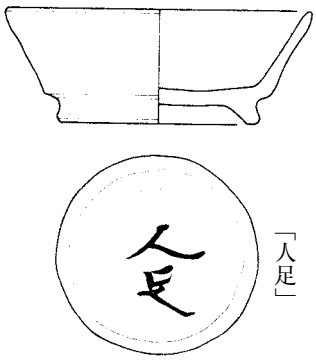
「大生部直子猪形代」

印西市西根遺跡

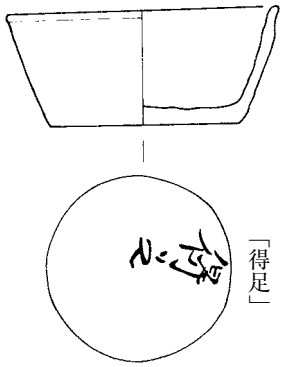
「日下部吉人」

印西市鳴神山遺跡

**人名**（一般的に男の名前には「麻（万）呂」・「足」など、女の名前には「刀自女」などがつきます。）

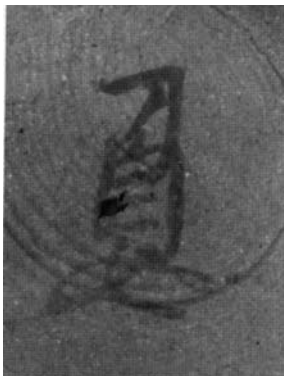


「人足」



「得足」

八千代市白幡前遺跡



「刀自女」

香取市吉原三王遺跡

※Ⅲ章の写真、図はそれぞれの発掘調査報告書から引用しましたが、紙面の都合で書名は省略させていただきました。ご了承ください。

# 展示遺跡一覧

| 市町村 | No. | 遺跡名 |
|---|---|---|
| 千葉市 | 1 | 定原 |
| | 2 | 芳賀輪 |
| | 3 | 谷津 |
| | 4 | 中鹿子第２ |
| | 5 | 南河原坂第２ |
| | 6 | 南河原坂窯跡群 |
| | 7 | 大椎第２ |
| | 8 | 松ケ丘 |
| | 9 | 仁戸名 |
| | 10 | 戸張作 |
| | 11 | 台畑 |
| | 12 | 黒ハギ |
| | 13 | 種ヶ谷津 |
| | 14 | 有吉 |
| | 15 | 高沢 |
| | 16 | 椎名崎 |
| | 17 | ムコアラク |
| | 18 | 西大野第１ |
| | 19 | 中原窯跡 |
| | 20 | 宇津志野窯跡 |
| | 21 | 鷲谷津 |
| | 22 | 観音塚 |
| | 23 | 太田法師 |
| 市原市 | 24 | 草刈 |
| | 25 | 萩ノ原 |
| | 26 | 上総国分僧寺跡 |
| | 27 | 上総国分尼寺跡 |
| | 28 | 荒久 |
| | 29 | 坊作 |
| | 30 | 市原条理 |
| | 31 | 郡本大宮 |
| | 32 | 稲荷台 |
| | 33 | 稲荷台１号墳 |
| 船橋市 | 34 | 本郷台 |
| | 35 | 印内台遺跡群 |
| | 36 | 夏見大塚 |
| | 37 | 海神台西 |
| | 38 | 東中山台遺跡群 |
| 市川市 | 39 | 北下 |
| | 40 | 下総国分寺跡 |
| | 41 | 下総国分尼寺跡 |
| | 42 | 下総国分 |
| | 43 | 曽谷貝塚 |
| | 44 | 須和田 |
| 八千代市 | 45 | 村上込の内 |
| | 46 | 権現後 |
| | 47 | 北海道 |
| | 48 | 井戸向 |
| | 49 | 白幡前 |
| 習志野市 | 50 | 谷津貝塚 |
| 松戸市 | 51 | 小野 |
| 柏市 | 52 | 高野台 |
| | 53 | 尾井戸 |
| | 54 | 中馬場 |
| 柏市 | 55 | 花前遺跡群 |
| 流山市 | 56 | 市野谷宮尻 |
| | 57 | 西深井一ノ割 |
| | 58 | 町畑 |
| | 59 | 若宮第１ |
| 我孫子市 | 60 | 別当地 |
| | 61 | 羽黒前 |
| | 62 | 新木東台 |
| | 63 | 布佐余間戸 |
| 鎌ケ谷市 | 64 | 双賀辺田 |
| 佐倉市 | 65 | 江原台 |
| | 66 | 寺崎向原 |
| | 67 | 大崎台 |
| | 68 | 坂戸遺跡群 |
| | 69 | 臼井南遺跡群 |
| | 70 | 将門鹿島台 |
| | 71 | 岩富漆谷津 |
| | 72 | 高岡遺跡群 |
| | 73 | 宮本宮後 |
| | 74 | 城次郎丸 |
| | 75 | 臼井台山崎 |
| | 76 | 寺崎上城堀 |
| | 77 | 腰巻 |
| | 78 | 六拾部 |
| | 79 | タルカ作 |
| | 80 | 南広 |
| 成田市 | 81 | 野毛平木戸下 |
| | 82 | 野毛平植出 |
| | 83 | 取香和田戸 |
| | 84 | 大袋台畑 |
| | 85 | 南囲護台 |
| | 86 | 大袋腰巻 |
| | 87 | 馬場扇作 |
| | 88 | 小菅法華塚 |
| | 89 | 妙福寺裏 |
| | 90 | 中台 |
| | 91 | 加良部 |
| | 92 | 堀尾 |
| | 93 | 八ツ又 |
| | 94 | 山口 |
| 四街道市 | 95 | 入ノ台第２ |
| | 96 | 南作 |
| 八街市 | 97 | 滝台 |
| | 98 | 新地 |
| | 99 | 一之綱Ⅲ |
| 富里市 | 100 | 久能高野 |
| | 101 | 久能下谷津 |
| | 102 | 寺沢 |
| | 103 | 新橋高松 |
| | 104 | 中沢野馬木戸 |
| | 105 | 塚越 |
| 栄町 | 106 | 大畑遺跡群 |
| | 107 | 龍角寺五斗蒔瓦窯跡 |
| 印旛村 | 108 | 油作第２ |
| 印旛村 | 109 | 平賀惣行 |
| | 110 | 山田虎ノ作 |
| | 111 | 岩戸広台 |
| 印西市 | 112 | 天神台 |
| | 113 | 駒形北 |
| | 114 | 鳴神山 |
| | 115 | 西根 |
| | 116 | 船尾白幡 |
| | 117 | 木下別所廃寺跡 |
| 本埜村 | 118 | 角田台 |
| 香取市 | 119 | 城山一号墳 |
| | 120 | 御座ノ内 |
| | 121 | 吉原三王 |
| | 122 | 神田台 |
| | 123 | 馬場 |
| 横芝光町 | 124 | 城山 |
| 東金市 | 125 | 作畑 |
| | 126 | 滝東台 |
| | 127 | 油井古塚原 |
| | 128 | 鉢ケ谷 |
| | 129 | 羽戸 |
| | 130 | 妙経 |
| | 131 | 久我台 |
| 大網白里町 | 132 | 宮台 |
| | 133 | 中林 |
| | 134 | 南麦台 |
| | 135 | 砂田中台 |
| | 136 | 大網山田台遺跡群 |
| | 137 | 一本松 |
| | 138 | 山荒久 |
| | 139 | 台前 |
| 山武市 | 140 | 真行寺廃寺跡 |
| | 141 | 荒追 |
| | 142 | 入谷 |
| | 143 | 小泉 |
| | 144 | 八田太田台 |
| 芝山町 | 145 | 谷窪・上楽 |
| | 146 | 宮門 |
| | 147 | 高田権現 |
| | 148 | 小池地蔵 |
| 館山市 | 149 | 安房国分寺跡 |
| 木更津 | 150 | 林 |
| | 151 | 久野 |
| 君津市 | 152 | 愛宕前 |
| | 153 | 常代 |
| 富津市 | 154 | 川島 |
| | 155 | 狐塚 |
| 袖ケ浦市 | 156 | 永吉台遺跡群 |
| | 157 | 川原井廃寺 |
| | 158 | 寒沢 |
| | 159 | 雷塚 |
| | 160 | 文脇 |

※開催館によって、一部、展示する遺跡の内容が異なります。
　また、本文中に記載した墨書土器等で展示していないものもあります。ご了承ください。

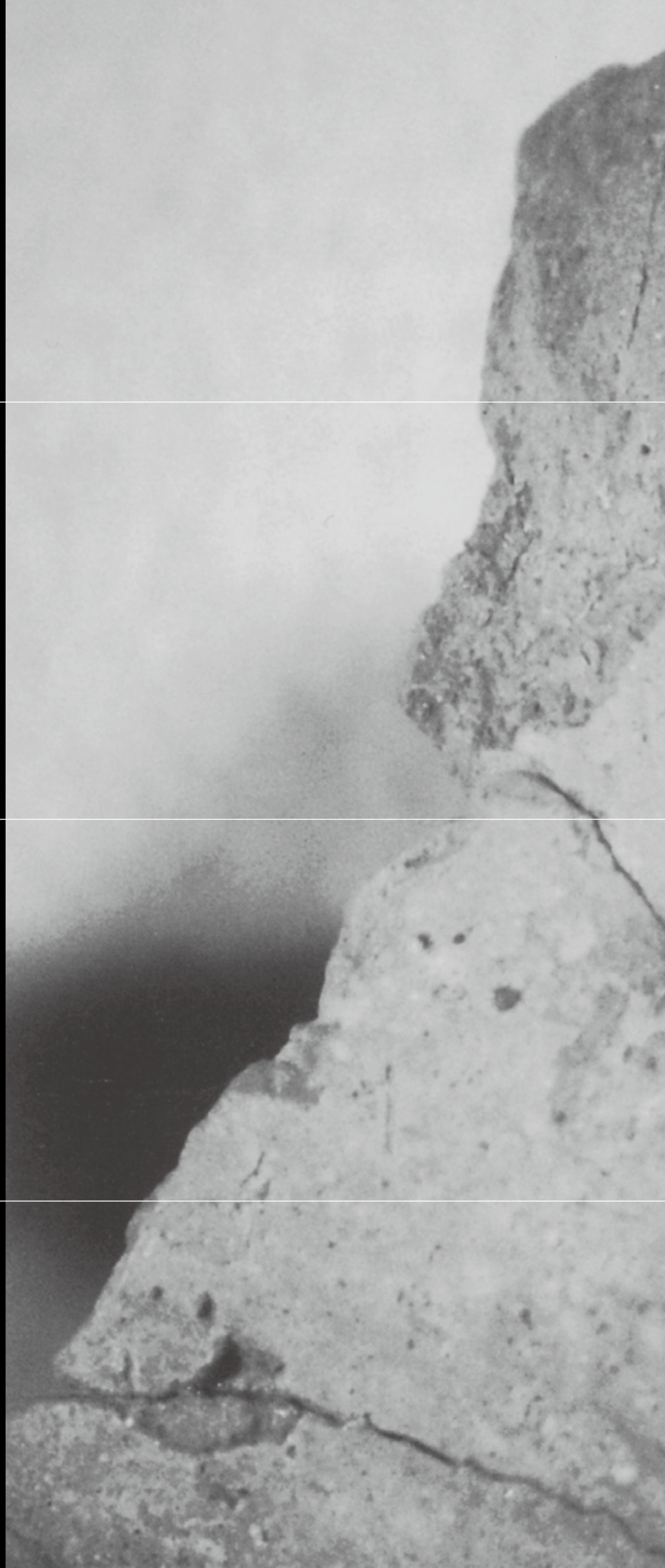
# 展示遺跡地図

西深井一ノ割
若宮第1・町畑
市野谷宮尻
花前遺跡群
尾井戸
高野台・
中馬場
新木東台
布佐余間戸・
羽黒前・
別当地
船尾白幡・
西根・
鳴神山
木下別所
廃寺跡・
天神台
岩戸広台
角田台
駒形北
江原台・臼井南遺跡群・
臼井台山崎
山田虎ノ作
平賀惣行・油作第2
龍角寺五斗蒔窯跡・
大畑遺跡群
将門鹿島台
高岡遺跡群
寺崎上城堀・城次郎丸・宮本宮後・南広・
寺崎向原・タルカ作・大崎台・腰巻・六拾部
大袋台畑・大袋腰巻
南囲護台・中台・加良部・堀尾・八ツ又・山口
小菅法華塚・馬場扇作・妙福寺裏
野毛平木戸下・野毛平植出
神田台
馬場
吉原三王
御座ノ内・城山1号墳
取香和田戸
久能高野・久能下谷津
新橋高松・寺沢
塚越
中沢野馬木戸
北海道・権現後・
井戸向
村上込の内
白幡前
双賀辺田
小野
曽谷貝塚
須和田・下総国分・
下総国分尼寺跡・
下総国分寺跡・
北下
印内台遺跡群・本郷台・
東中山台遺跡群・
海神台西
夏見大塚
谷津貝塚
定原
入ノ台第2
南作
坂戸遺跡群・岩富漆谷津
戸張作
宇津志野窯跡・中原窯跡
芳賀輪
高沢・有吉・種ヶ谷津・
台畑・仁戸名・松ケ丘・
谷津・椎名崎・ムコアラク・
鷲谷津・観音塚・
太田法師
城山
谷窪・上楽
高田権現・宮門
小池地蔵
新地・一之綱Ⅲ
八田太田台
荒追・入谷
真行寺廃寺跡
小泉
久我台・妙経
油井古塚原・滝東台・作畑
滝台
羽戸
鉢ヶ谷
一本松・大網山田台遺跡群・山荒久・台前
中林・宮台・南麦台・砂田中台
西大野第1・黒ハギ・大椎第2・南河原坂・中鹿子第2
市原条里制・草刈
稲荷台1号墳・上総国分僧寺跡・上総国分尼寺跡・
荒久・坊作・郡本大宮・稲荷台
萩ノ原
永吉台遺跡群・川原井廃寺
寒沢・雷塚
文脇
林
久野
愛宕前
常代
狐塚
川島
安房国分寺跡

平成 21 年度出土遺物巡回展
**房総発掘ものがたり**

**地下 50cm　文字の世界**

**①千葉県立房総のむら**
平成 21 年 7 月 4 日（土）～ 8 月 2 日（日）
**②八千代市立郷土博物館**
平成 21 年 8 月 8 日（土）～ 9 月 13 日（日）
**③市立市川歴史博物館**
平成 21 年 9 月 19 日（土）～ 10 月 25 日（日）
**④袖ケ浦市郷土博物館**
平成 21 年 10 月 31 日（土）～ 11 月 29 日（日）
**⑤千葉県立関宿城博物館**
平成 21 年 12 月 5 日（土）～平成 22 年 1 月 3 日（日）
**⑥千葉県立中央博物館**
平成 22 年 1 月 9 日（土）～ 2 月 21 日（日）



※本文の執筆はⅢ. 文字の定着と多様化（８世紀以降）については栗田則久、展示遺跡一覧、展示遺跡地図は森恭一、その他は加藤修司が担当しました。
※この巡回展は平成 21 年度国宝重要文化財等保存整備費補助金（埋蔵文化財・周知事業）の交付を受けて実施しています。

発行日◎平成 21 年 7 月 4 日
編集・発行◎財団法人千葉県教育振興財団文化財センター
〒284-0003　四街道市鹿渡 809 番地の 2
印刷◎株式会社エリート情報社 [ 印刷出版局 ]